

### 3 公債費負担適正化計画の進行管理

(1) 実質公債費比率の算出結果

平成23年度決算が確定したことによる平成24年度実質公債費比率は、16.5%となりました。算出結果の詳細は、次のとおりとなります。

○分子として計上するもの

(単位：千円)

項 目		平成21年度	平成22年度	平成23年度	
①	一般会計等の地方債元利償還金	7,419,392	6,430,825	6,575,624	
	繰上償還額及び借換債を財源として償還した額	770,035	0	0	
	元利償還金に充てられる特定財源	貸付金の財源として発行した地方債に係る貸付金の元利償還金	41,586	41,594	29,690
		公営住宅使用料	316,621	213,036	187,249
		その他	48,041	44,280	43,640
	公債費充当一般財源（一般会計等）		6,243,109	6,131,915	6,315,045
②	公営企業への繰出金のうち地方債の償還に充てたと認められるもの	水道事業会計	52,008	5,475	26,252
		下水道事業特別会計	995,428	914,708	847,990
		地方卸売市場事業特別会計	1,589	10,733	16,085
		農業集落排水事業特別会計	127,012	120,468	109,348
		個別生活排水事業特別会計	8,243	10,904	14,734
		小計	1,184,280	1,062,288	1,014,409
③	一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	会津若松地方広域市町村圏整備組合	458,148	453,555	441,683
		小計	458,148	453,555	441,683
④	公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	土地開発公社に係る償還分	487,471	334,741	312,867
		利子補給に係るもの	12,670	10,639	10,245
		国営土地改良事業に係るもの	69,405	69,405	0
		その他準公債費	20,474	14,326	13,781
		小計	590,020	429,111	336,893
⑤	一時借入金利子	3,370	441	1	
合 計… (A)		8,478,927	8,077,310	8,108,031	

○分母として計上するもの

⑥	標準税収入額等	18,609,198	16,547,129	15,935,934
	普通交付税額	8,386,523	9,830,809	10,523,613
	臨時財政対策債発行可能額	1,822,709	3,054,912	2,476,933
合 計… (B)		28,818,430	29,432,850	28,936,480

○分子、分母から控除するもの

⑦	普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された地方債の元利償還金（準元利償還金を含む）… (C)	4,034,254	4,091,824	4,138,444
---	--	-----------	-----------	-----------

⑧	実質公債費比率（単年度） $\frac{(A)-(C)}{(B)-(C)}$	17.93351%	15.72741%	16.00767%
---	--	-----------	-----------	-----------

平成24年度実質公債費比率 ※3カ年平均 (平成21～23年度)	16.5%
--	-------

参考1 一般会計の各年度市債残高

(単位：千円)

項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
一般会計市債残高	46,249,930	46,119,725	44,573,912
前年度比増減額	▲1,490,180	▲130,205	▲1,545,813

参考2 実質公債費比率の他市の状況

(単位：%)

団体名	平成23年度 実質公債費比率 (3ヵ年平均)	平成24年度 実質公債費比率 (3ヵ年平均)	増減
会津若松市	17.4	16.5	▲0.9
福島市	5.9	5.3	▲0.6
郡山市	8.7	7.7	▲1.0
いわき市	12.4	12.8	0.4
白河市	16.6	14.6	▲2.0
須賀川市	9.5	9.5	—
喜多方市	17.4	16.3	▲1.1
相馬市	19.6	17.7	▲1.9
二本松市	17.2	15.2	▲2.0
田村市	10.7	9.2	▲1.5
南相馬市	15.7	15.2	▲0.5
伊達市	13.4	11.6	▲1.8
本宮市	18.3	16.4	▲1.9
県内13市の平均値	14.1	12.9	▲1.2
全国類似団体平均値	12.9	12.1	▲0.8

(2) 実質公債費比率の将来推計

(単位:千円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
① 公債費充当一般財源等額（繰上償還額及び満期一括償還地方債の元金に係る分を除く。）	6,138,399	6,188,831	5,748,013	5,577,809
② 公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	997,144	971,527	980,933	987,767
③ 一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	313,734	240,194	172,972	163,212
④ 公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	331,254	309,270	256,347	228,318
⑤ 一時借入金の利子	1,000	1,000	1,000	1,000
⑥ 標準財政規模	28,662,638	28,233,123	28,271,123	27,856,123
⑦ 地方債に係る元利償還に要する経費として基準財政需要額に算入された額（準元利償還金分を含む）	4,101,532	4,281,909	4,409,261	4,305,749

⑧ 実質公債費比率（単年度）	14.98303%	14.31624%	11.52468%	11.26248%
⑨ 実質公債費比率 （3ヶ年度の平均）	16.5%	15.5%	15.1%	13.6%

### (3) 計画の進行管理

平成24年度の実質公債費比率は、これまでの新規市債の発行額を元金償還額以下に抑えるなどの取り組みの結果、16.5%となり、平成23年度と比較すると0.9ポイントの改善が図られました。なお、地方債発行について県の許可が必要となる18%の基準値を下回っております。

しかしながら、実質公債費比率は、その算定要素である普通交付税や臨時財政対策債発行可能額など国の動向に左右される要因も大きく、また、基準値は下回ってはいるものの、県内13市の平均値が12.9%、全国の類似団体平均も、12.1%であるなど、本市の比率は、依然として高い水準にあると言えます。

したがって、他団体の平均値を一つの目安としながら、引き続き、公債費負担適正化計画の進行管理を行い、新規市債発行額の適正管理による市債残高の着実な低減を図るものであります。